

## ファイザー製コロナワクチン接種後の心筋炎発症率、 若年男性の2回接種者で増大

イスラエルでは2021年5月末時点で、およそ510万人が新型コロナウイルスのmRNAワクチンBNT162b2の2回接種が完了している。有害事象のモニタリングで心筋炎が報告された早期の段階から、同国保健省で積極的な調査を行っている。本研究ではこのデータをもとに、ワクチンの初回接種・2回目接種後の心筋炎発症の罹患率について評価した。

2020年12月20日～2021年5月31日に心筋炎症状が認められた304例のうち、21例は別の診断名がついていた。それらを除く283例のうち、BNT162b2ワクチン接種に関連すると考えられるのは136例であった。そのうち129例(95%)が軽症とされたが、劇症だった1例は死亡した。ワクチン初回接種と2回接種後の罹患率の差、すなわちリスク差を算出した結果、全体では1.76/10万人で、16～19歳の男性で最も差が大きく13.73/10万人だった。ワクチン2回接種完了者の2回目接種後30日の、ワクチン非接種者に対する心筋炎発症に関する率比は2.35で、16～19歳男性で最も高く(率比8.96)、6637人に1人の割合であった。

今回の結果から、ファイザー製mRNAコロナワクチン接種後の心筋炎発症率は低いものの、若い男性の2回目接種後に増大したが、臨床症状については、多くは軽症であることが示された。